

# SVJ オビディエンス 規定と審査表



## オビディエンス1 40P

1. リード付きで行進（IPOスタイル）	10点
2. 常歩行進中の座れ	10点
3. 常歩行進中の伏せと呼び寄せ	10点
4. 休止	10点

## オビディエンス2 50P

1. リードなしで行進（IPOスタイル）	10点
2. 常歩行進中の座れ	10点
3. 常歩行進中の伏せと呼び寄せ	10点
4. 常歩行進中の立止	10点
5. 休止	10点

## オビディエンス3 70P

1. リードなしで行進（IPOスタイル）	10点
2. 常歩行進中の座れ	10点
3. 速歩行進中の伏せと呼び寄せ	10点
4. 速歩行進中の立止と呼び寄せ	10点
5. 物品持来（ダンベル等の任意物品）	10点
6. 前進及び伏せ	10点
7. 休止	10点

2017年12月15日 ver.2

## **全般規定**

このオビディエンス競技は、訓練普及のためにドイツシェパード犬のみならず、どのような犬種でも、どのような大きさの犬でも、そして血統書のない犬でも出場できます。

IPO服従単課目（UPr）とも繋がりを持たせた内容ですので、3レベルに達した犬は、是非UPrにもチャレンジしてみてください。

競技日において犬の年齢が12ヶ月以上であること。狂犬病ワクチンが接種済みであり、有効期限内であること。妊娠中の犬や、病犬、怪我をしている犬は出場できません。発情しているメス犬は出場番号が一番最後になります。

審査は各課目ごとに評価が下され、その評価に応じた点数が与えられます。

審査終了後は直ちに審査員から講評がなされ、評価と得点が発表されます。

出場者が審査表の閲覧を希望した場合、審査員はそれを拒むことができません。ただし、審査内容に異議を申し立てる事はできません。

合計点が同点の場合は同順位として表彰します。

このプログラムは競技会用であり、訓練資格を得ることはできません。

## **注意事項**

○ハンドラーと出場犬はスポーツマンシップで、そして愛犬家としてのルールを守って参加すること。

○リードはポケットに入れるか、肩に掛ける（左肩から右腰へ）。犬の着衣や一般的でない首輪は審査員が認めれば使用できる。首輪はいかなる場合も締め（チョーク）の状態にしてはならない。胴輪やスパイク首輪の装着は認められない。

○手にはなにも持っていない。防寒目的以外の手袋の装着も禁止です。

○各課目は全て審査員の合図で開始します。次に行う課目を忘れて審査員に尋ねることや、課目の内容を指示してくれるように前もって頼むことは問題ありません。

○競技は全て基本姿勢に始まり、基本姿勢で終了する。各課目の終了時に犬を誉めてもかまわない。

○命令はどのような言葉でも良いが、一動作に対して短い単一の「声符」だけが許される。手や体を使用した場合は、その度合いにより評価が下げられる。（許される課目は除く）

○左反転ターンは、ハンドラーは必ず左回りで行う。犬は頭を軸に体を180度ひねって、あるいはハンドラーの後ろを回ってのどちらでも良い。

○ハンドラーが待っている犬のもとに戻るとき、犬の右側に直接、あるいは犬の後ろを回ってのどちらでもよい。正面に座っている犬を左側に座らせるとき、犬は頭を軸に体を180度ひねって、あるいはハンドラーの後ろを回ってのどちらでも良い。

○課目と課目の間に移動が必要な場合に犬を自由にしてはいけない。ダンベルまたは任意物品を取りに行くときは、その地点まで犬と一緒にいく。

## **課目の中止**

○ハンドラーの三度による命令で、その課目あるいは課目に必要な動作が実行できない場合、その課目は0点となる（競技は続行できる）。例：三度の「フセ」の命令で犬は伏せない。ただし、例外パターンはIPO規定に準ずる。

## **失格**

○競技中いかなる場面（入退場や会場付近などでも）、ハンドラーのスポーツマンシップに欠ける態度、あるいは審査員が犬の性格に重大な欠点を認めた場合、競技は中止され失格となる。評価と得点は一切与えられない。

○コントロール不能犬、あるいは犬がハンドラーのもとを離れて三度の呼び戻しでハンドラーのもとにあるいは競技場内に戻ってこない場合も競技は中止され失格となる。

**すべての規定は原則としてIPOに準ずる。その他の事態は審査員が判断する。**

<b>オビディエンス 1      40点</b>
---------------------------

SVJオビディエンス1への出場条件変更（OB1のみ） 2017.12.15より  
 プロは自己所有犬でOB1クラスに出場できない（自己所有犬でなければOK）

\* 全課目リード付き（希望するなら外しても良い）

1. リード付きで行進（IPOスタイル）	10点
2. 常歩行進中の座れ	10点
3. 常歩行進中の伏せと呼び寄せ	10点
4. 休止	10点

### 1. リード付きで行進（IPOスタイル） 10点 要領図参照

リード付きの犬を伴ったハンドラー2名が審査員に申告をします。

出場番号の若いハンドラーと犬は出発点で基本姿勢（ハンドラーは進行方向に立ち、犬は左側で進行方向に真っ直ぐに座る）で、審査員の指示を待ちます。

審査員の指示で要領図の通りに歩行します。

命令は「出発、歩度の変更、停止後の再出発」にのみ許される。

左反転ターン、コーナー、停止時などでは命令は使用できません。群衆は8の字行進する。

### 2. 常歩行進中の座れ 10点（リードは命令と同時に手から離す）

出発点での基本姿勢から、審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。

10～15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「スワレ」の命令で犬を座らせ、ハンドラーは振り返ることなくそのまま15歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ち終了基本姿勢を示す。

### 3. 常歩行進中の伏せと呼び寄せ 10点（リードは命令と同時に手から離す）

SVJオビディエンス正面停座のルール変更（OB1, 2, 3共通） 2017.12.15より

1. 呼び寄せたときに犬は正面停座を行い次の命令で基本姿勢に移る

2. 呼び寄せたときに犬は正面停座なしで直接、基本姿勢を行う（ハンドラーの左側で座る）  
 パターン2. の場合、命令は呼び寄せ時のコイのみ。1. 2. どちらで行うかは競技開始前に申告する

この課目は出発点に戻ることなく、常歩行進中の座れを終えた地点での基本姿勢から始まります（会場が狭い場合は戻っても良い）。

審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。10～15歩の間で歩度を変えたり、立ち

止まったりせずに「フセ」の命令で犬を伏せさせ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で「コイ」を命じる。呼ばれた犬はハンドラーの正面に座る。

審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）おいて犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。

#### **4. 休止 10点**

審査員に申告をした後、一組は出発地点に、そしてもう一組のハンドラーと犬は指定された場所に行きます。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとる。

審査員の指示で犬に「フセ」を命じてリードは犬の横に静かに置く。

ハンドラーは振り返ることなく、10歩離れて犬に右肩または左肩を向けて立ちます。

審査員が犬のもとに行くように指示したら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の指示で犬を座らせて終了基本姿勢を示してから、リードを持つ。

（ハンドラーは犬を見てもかまわないが、指示を与えた場合は減点される。いかなるタイミングであっても3m以上移動した場合、得点は0点となる）

<b>オビディエンス 2      50点</b>
---------------------------

\* リードは最初に行う課目の前に外す。立止後または休止後に装着する。

1. リードなしで行進（IPOスタイル）	10点
2. 常歩行進中の座れ	10点
3. 常歩行進中の伏せと呼び寄せ	10点
4. 常歩行進中の立止	10点
5. 休止	10点

### 1. リードなしで行進（IPOスタイル） 10点      要領図参照

リード付きの犬を伴ったハンドラー2名が審査員に申告をします。

出場番号の若いハンドラーと犬は出発点でリードを外して、基本姿勢（ハンドラーは進行方向に立ち、犬は左側で進行方向に真っ直ぐに座る）をとり、審査員の指示を待ちます。

審査員の指示で要領図の通りに歩行します。

命令は「出発、歩度の変更、停止後の再出発」にのみ許される。

左反転ターン、コーナー、停止時などでは命令は使用できません。群衆は8の字行進する。

### 2. 常歩行進中の座れ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。

10～15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「スワレ」の命令で犬を座らせ、ハンドラーは振り返ることなくそのまま15歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ち終了基本姿勢を示す。

### 3. 常歩行進中の伏せと呼び寄せ 10点

SVJオビディエンス正面停座のルール変更（OB1, 2, 3共通） 2017.12.15より

1. 呼び寄せたときに犬は正面停座を行い次の命令で基本姿勢に移る
2. 呼び寄せたときに犬は正面停座なしで直接、基本姿勢を行う（ハンドラーの左側で座る）  
パターン2.の場合、命令は呼び寄せ時のコイのみ。1. 2. どちらで行うかは競技開始前に申告する

この課目は出発点に戻ることなく、常歩行進中の座れを終えた地点での基本姿勢から始まります（会場が狭い場合は戻っても良い）。

審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。10～15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「フセ」の命令で犬を伏せさせ、ハンドラーは振り返ることなく常歩で

30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で「コイ」を命じる。呼ばれた犬はハンドラーの正面に座る。

審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）おいて犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。

#### **4. 常歩行進中の立止 10点**

課目3を終えた地点から、審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。

10～15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「タッテ」の命令で犬を立たせて、ハンドラーは振り返ることなくそのまま15歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ち審査員の指示で犬に座れを命じて終了基本姿勢を示してから、リードを装着して休止地点または審査員のもとへ行く。

#### **5. 休止 10点**

審査員に申告をした後、一組は出発地点に、そしてもう一組のハンドラーと犬は指定された場所に行きます。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとる。

リードは伏せの命令前に外して肩に掛けるかポケットに入れる。

審査員の指示で犬に「フセ」を命じてハンドラーは振り返ることなく、20歩離れて犬に右肩または左肩を向けて立ちます。

審査員が犬のもとに行くように指示したら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の指示で犬を座らせて終了基本姿勢を示してから、リードを装着する。

（ハンドラーは犬を見てもかまわないが、指示を与えた場合は減点される。いかなるタイミングであっても3m以上移動した場合、得点は0点となる）

## オビディエンス3 70点

\* リードは最初に行う課目の前に外す。前進後または休止後に装着する。

1. リードなしで行進（IPOスタイル）	10点
2. 常歩行進中の座れ	10点
3. 速歩行進中の伏せと呼び寄せ	10点
4. 速歩行進中の立止と呼び寄せ	10点
5. 物品持来（ダンベル等の任意物品）	10点
6. 前進及び伏せ	10点
7. 休止	10点

### 1. リードなしで行進（IPOスタイル）10点 要領図参照

リード付きの犬を伴ったハンドラー2名が審査員に申告をします。

出場番号の若いハンドラーと犬は出発点でリードを外して、基本姿勢（ハンドラーは進行方向に立ち、犬は左側で進行方向に真っ直ぐに座る）をとり、審査員の指示を待ちます。

審査員の指示で要領図の通りに歩行します。

命令は「出発、歩度の変更、停止後の再出発」にのみ許される。

左反転ターン、コーナー、停止時などでは命令は使用できません。群衆は8の字行進する。

### 2. 常歩行進中の座れ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。

10～15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「スワレ」の命令で犬を座らせ、ハンドラーは振り返ることなくそのまま15歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で犬のもとへ戻り、犬の右側に立ち終了基本姿勢を示す。

### 3. 速歩行進中の伏せと呼び寄せ 10点

SVJオビディエンス正面停座のルール変更（OB1, 2, 3共通） 2017.12.15より

1. 呼び寄せたときに犬は正面停座を行い次の命令で基本姿勢に移る

2. 呼び寄せたときに犬は正面停座なしで直接、基本姿勢を行う（ハンドラーの左側で座る）  
 パターン2. の場合、命令は呼び寄せ時のコイのみ。1. 2. どちらで行うかは競技開始前に申告する

この課目は出発点に戻ることなく、常歩行進中の座れを終えた地点での基本姿勢から始まります（会場が狭い場合は戻っても良い）。

審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。10～15歩の間で速歩に切り替えて10～15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「フセ」の命令で犬を伏せさせ、ハンドラーは振り返ることなく速歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で「コイ」を命じる。呼ばれた犬はハンドラーの正面に座る。

審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）おいて犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。

#### 4. 速歩行進中の立止と呼び寄せ 10点

##### SVJオビディエンス正面停座のルール変更（OB1, 2, 3共通） 2017.12.15より

1. 呼び寄せたときに犬は正面停座を行い次の命令で基本姿勢に移る

2. 呼び寄せたときに犬は正面停座なしで直接、基本姿勢を行う（ハンドラーの左側で座る）  
パターン2. の場合、命令は呼び寄せ時のコイのみ。1. 2. どちらで行うかは競技開始前に申告する

課目3を終えた地点から、審査員の指示でハンドラーと犬は最初から速歩行進を行なう。

10～15歩の間で歩度を変えたり、立ち止まったりせずに「タッテ」の命令で犬を立てて、ハンドラーは振り返ることなく速歩で30歩進んで立ち止まり犬と対面します。

審査員の指示で「コイ」を命じる。呼ばれた犬はハンドラーの正面に座る。

審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）おいて犬を左側に座らせて基本姿勢をとります。

#### 5. 物品持来（ダンベル等の任意物品） 10点（ボールやおもちゃ系はNG）

基本姿勢からハンドラーは、ダンベル等を最低10歩前方に投げ、ダンベル等が完全に静止したら審査員の指示なしで犬に「モッテコイ」を命じる。

犬は最短距離で素早くハンドラーのもとへダンベル等を持ってくる。

犬はダンベル等をくわえたまま正面停座をする。ハンドラーは審査員の指示なしで一呼吸（明確な間）おいて「ダセ」を命令してダンベル等を受け取る。受け取ったダンベル等は右手で持つ。審査員の指示なしで犬に命令を与えて基本姿勢をとります。

#### 6. 前進及び伏せ 10点

出発点での基本姿勢から、審査員の指示でハンドラーと犬は常歩で歩く。10～15歩の間で犬に「マエヘ」を命じ、ハンドラーはその場で立ち止まる（命令と同時に腕を上げてても良い）。犬が約30歩前進した後に、審査員の指示があってからで「フセ」を命じる。

審査員が犬のもとに行くように指示したら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の指示で犬を座らせて終了基本姿勢を示してから、リードを装着して休止地点または審査員のもとへ行く。

（犬が命令で止まらない、伏せない等の特殊パターン評価はIPO規定に準ずる）

## 7. 休止 10点

審査員に申告をした後、一組は出発地点に、そしてもう一組のハンドラーと犬は指定された場所に行きます。

ハンドラーと犬はハンドラーが離れる方向に向かって基本姿勢をとる。

リードは伏せの命令前に外して肩に掛けるかポケットに入れる。

審査員の指示で犬に「フセ」を命じてハンドラーは振り返ることなく、30歩離れて犬に右肩または左肩を向けて立ちます。

審査員が犬のもとに行くように指示したら犬のもとへ行き、伏せている犬の右側に立ち、審査員の指示で犬を座らせて終了基本姿勢を示してから、リードを装着する。

(ハンドラーは犬を見てもかまわないが、指示を与えた場合は減点される。いかなるタイミングであっても3m以上移動した場合、得点は0点となる)



**SVJ オビディエンス審査表**

開催日： 年 月 日 会場：

出場 No.	OB 1	OB 2	OB 3
犬名	生年月日		
犬種	性別 牡・牝	外ウ or チップ	
指導手	会員番号		
所有者	住所・TEL		

課 目	1	2	3	評価	得点	講 評
1 リード付き行進 23 リードなし行進	10	10	10			
123 常歩行進中の座れ	10	10	10			
12 常歩行進中伏せと招呼 3 速歩行進中伏せと招呼	10	10	10			
2 常歩中の立止 3 速歩行進中立止と招呼	---	10	10			
3 物品持来	---	---	10			
3 前進及び伏せ	---	---	10			
1 リード付き休止 23 休止（リード外す）	10	10	10			3m以上の移動は0点 やり直し不可
最小採点は0.5	40	50	70			審査員署名

	M	B	G	SG	V
10	0-6.5	7-7.5	8-8.5	9-9.5	10
40	0-27.5	28-31.5	32-35.5	36-38	38.5-40
50	0-34.5	35-39.5	40-44.5	45-47.5	48-50
70	0-48.5	49-55.5	56-62.5	63-66.5	67-70

\* 審査表は担当審査員が最低3年間保管すること